

日本での NCGM 見学、JICA 本部訪問
(2022 年 12 月 8 日)

今回は保健省 HIV/AIDS 予防局 (VAAC)、そしてプロジェクトのメインカウンターパートである国立熱帯病病院 (NHTD) 幹部を日本に招聘し、プロジェクトを共に実施してきた国立国際医療研究センター (NCGM) エイズ治療・研究開発センター (ACC) を見学しながら、今後プロジェクト終盤へ向けた、更にはそれを越えたより中・長期的な協力についても議論しました。本来はこういった訪日の機会はプロジェクト前半に実施できれば良かったのですが、皆さんご承知の通りの新型コロナウイルスの影響でこれまで全くできず、プロジェクト4年目後半にしてようやく実現しました。



ベトナム側プロジェクトメンバーが、プロジェクトリーダーの岡先生を NCGM に訪れました。



NCGM・ACC でのサンプル管理の現状について説明を受ける参加者たち。

NCGM では、ACC における HIV 感染者への臨床現場を見学し、1997 年 ACC 開設以降 26 年にわたり管理している血液サンプルの「バイオバンク」も視察しました。NCGM 病院全体のバイオバンクに先駆けて始まる ACC のバイオバンクでは、長年の蓄積により過去に遡って HIV ウイルスに関する研究を行うことができますようになっています。



SATREPS プロジェクトの日越双方代表が、NCGM 前で記念撮影。



JICA 本部を訪問。プロジェクトの最終成果達成のため、更に協力を深めていきます。

続いて、JICA 本部への訪問では、プロジェクト実施を支援して頂いている人間開発部の皆さんともお会いし、



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



プロジェクトの進捗と今後の計画について議論を行いました。プロジェクト最終年度が近づくこのタイミングではありますが、プロジェクト実施の研究成果が徐々に認められて、保健省 HIV/AIDS 予防局も SATREPS プロジェクト研究に大きな関心を寄せてくれるようになりました。この成果を、最終的には HIV/AIDS 治療・予防政策提言へと広げていきたいと、プロジェクト関係者一同、努力しているところです。